

協議事項

コロナ禍におけるがん検診の受診率向上について

(協議事項)

今年度当初、新型コロナウイルス感染症の影響により、がん検診の受診控えや検診の延期等により、検診者数の減少が言われていた。

市町村は、適切な感染防止対策を行った上で、がん検診の実施を再開したと聞いており、また、県としても、がん検診の受診を周知啓発しているが、さらなる検診の受診率向上を図るためにどのような方策を行えばよいか御協議いただきたい。

1 現状

今年度当初、緊急事態宣言の発出により、市町村は検診の延期等の措置を行ったと聞いているが、現在、再開されており受診者数は徐々に増加してきている。

(参考) 市町村実施のがん検診受診者数

	受診者数 (R2. 7月末時点)	受診者数 (R1. 7月末時点)	対前年度比
県全体 受診者数	100,149	189,722	52.8%

(R2.9 健康増進課調べ)

	受診者数 (R2. 12月末時点)		受診者数 (R1. 12月末時点)		対前年度比	
検診区分	集団	個別	集団	個別	集団	個別
県全体 受診者数	309,594	32,569	353,847	35,257	87.5%	92.4%

(R3.1 健康増進課調べ)

2 県の取組

- ・「がん征圧月間」(9月)における普及啓発
マスコミキャラバン, ラジオ・テレビ等を活用した周知, Web広告,
新聞掲載, 県庁18階へのパネル設置 等
- ・「ピンクリボン月間」(10月)における普及啓発
ピンクリボンツリー設置セレモニー, 街頭キャンペーン, PR看板設置
関係機関へのポスター, リーフレットの配布

令和 2 年 5 月 1 日
改正 令和 2 年 5 月 14 日

健康診断実施時における新型コロナウイルス感染症対策について

(一社) 日本総合健診医学会
(公社) 日本人間ドック学会
(公財) 結核予防会
(公社) 全国労働衛生団体連合会
(公財) 日本対がん協会
(公社) 全日本病院協会
(一社) 日本病院会
(公財) 予防医学事業中央会

私たちの提供する健康診断（以下「健診」という。）においては、新型コロナウイルス感染症に対する感染防止対策を徹底するため、厚生労働省ほか関係省庁の通知、関連学会の見解等を踏まえ、健診実施機関として適切な感染症対策を行い、受診環境を確保します。

なお、本対策は対策制定時の知見を踏まえて作成したものであり、新たな知見等が得られた場合、改訂されるものです。

I 健診実施機関の対応

○ 基本姿勢

新型コロナウイルス感染症対策としていわゆる「3密」（密閉・密集・密接）を避けることとされています。健診施設は、3つの密のそれぞれを可能な限り回避することにより、受診環境の確保に努めます。

○ 健診施設の受診環境の確保

- ・受診者、健診施設職員（以下「職員」という。）相互の安全確保のため、健診の遂行上、特に必要のある場合を除き、健診会場ではマスク（サージカルマスク、布マスク等）着用を原則とします。
- ・マスク不足が深刻な折、受診者のマスクは原則として受診者に用意してもらいます。マスク着用がない場合は健診を受診できません。万一、マスクがない場合は健診施設にご相談ください。
- ・健診受付後、速やかに問診、体温測定を行い、受診者の健康状態を確認します。

- ・発熱があるなど健診受診者として不相当と判断した場合は、受診者に説明した上で、後日、体調が回復してからの受診とします。
 - ・「密集・密接」を避けるため、受診者間の距離を確保するとともに、健診に要する時間を可能な限り短縮します。
 - ・受診者と職員が対面で話す際は、適切な距離を確保するよう配慮をします。
 - ・室内の換気は、1時間に2回以上定期的に窓やドアを開けるなどして行います（ただし、機械式換気装置が稼働し、十分な換気量が確保されている場合は除きます。）。
 - ・受診者の「密集」を避けるため、1日の予約者数、予約時間等を調整します。
 - ・職員は、アルコール消毒液等により入念に手指の消毒を励行します。
 - ・ロッカールーム、トイレ、ドアノブ、階段手摺、エレベータ呼びボタン、エレベータ内部のボタン等受診者が触れる箇所を、定期的にアルコール消毒液又は次亜塩素酸ナトリウム消毒液により清拭し環境衛生に努めます。
- 健診施設職員が感染源とならないための配慮
- ・職員は毎朝出勤前に体温測定し、発熱等の症状を認めるときには職場に電話連絡し、医療機関を受診します。管理者は、毎朝職員の体温測定結果と体調を確認・記録し、異常を認めた場合は出勤を停止します。
 - ・過去に発熱が認められた場合、解熱後 24 時間以上が経過し、呼吸器症状等が改善傾向となるまでは出勤を停止します。（インフルエンザ等の発熱の原因が診断された場合は、各疾患の規定に従います。）このような状況が解消した場合であっても、管理者は引き続き当該職員の健康状態に留意します。
 - ・すべての職員はマスクを着用するとともに、手洗い又はアルコール消毒液等による手指消毒を徹底して行います。
 - ・職員休憩室やロッカー室の什器等においても定期的な消毒を行い、職員間で感染が起らないように努めます。
 - ・職員に新型コロナウイルス感染者が発生した場合は、管理者は保健所等の指示に基づき、直ちに万全の対応を行います。
 - ・新型コロナウイルス感染症に罹患し、治療した職員は、保健所等の指導に基づき、出勤を再開します。
- 緊急時の対応
- ・胸部エックス線検査で新型コロナウイルス肺炎を疑う所見が認められた場合は、直ちに当該受診者に説明し、その後の健診を中止します。
 - ・当該受診者の移動経路について接触部位の消毒を直ちに行い、関与した職員の接触状況を調査します。

- ・当該受診者と接触した可能性のある職員は一旦、自宅待機措置とし、当該受診者が新型コロナウイルス肺炎の可能性が低いと判断された場合は復職し、新型コロナウイルス感染症と確認された場合は、保健所等の指示に基づき対応します。

○ 健康診断項目ごとの留意事項

① 問診、診察、説明、保健指導

- ・診察の前後で必ずアルコール消毒液等で手指消毒を励行します。
- ・聴診器、接触式体温計、診察室の什器等について、受診者毎にアルコール消毒液又は次亜塩素酸ナトリウム消毒液で清拭します。
- ・結果説明、保健指導等の実施に当たっては適切な距離を確保する、あるいはパーティションを設けるよう配慮します。また、説明資料等を工夫するなどし、結果説明、保健指導の効率化を図ります。

② 身体計測、生理機能検査

- ・身体計測、生理機能検査に使用する機器で受診者の手や顔等が触れる部分については、使用ごとにアルコール消毒液で清拭します。

③ X線撮影

- ・受診者が触れる箇所を検査毎にアルコール消毒液又は次亜塩素酸ナトリウム消毒液で清拭します。

④ 内視鏡検査

- ・日本消化器内視鏡学会の指針を尊重し、実施する場合には感染予防策を徹底します。

⑤ その他の生体検査機器

- ・受診者の体が触れる部分は、受診者毎にアルコール消毒液又は次亜塩素酸ナトリウム消毒液で清拭します。

○ 巡回型健診

- ・巡回型健診においては、施設健診における対応と同等の受診環境を整えます。
- ・当該事業場の組織単位ごとに受診時間を分散する等の方法を工夫します。また 受診者間の距離を保ち、換気可能な検査スペースを確保出来るよう協力を事業者等に要請します。
- ・健診車両においては、一度に乗車する人数を適正な数にし、十分な換気を行います。

II 受診者にお願いする事項

○ 事前に受診者へ通知する事項

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、当分の間、次の方は、受診をお断りして

いますので、体調が回復してから受診してください。

- いわゆる風邪症状が持続している方
- 発熱（平熱より高い体温、あるいは体温が 37.5℃以上を目安とする。）、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁、鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気、嘔吐、味覚障害、嗅覚障害などの症状のある方
- 過去 2 週間以内に発熱（平熱より高い体温、あるいは体温が 37.5℃以上を目安とする。）のあった方
- 2 週間以内に、法務省・厚生労働省が定める諸外国への渡航歴がある方（およびそれらの方と家庭や 職場内等で接触歴がある方）
- 2 週間以内に、新型コロナウイルスの患者やその疑いがある患者（同居者・職場内での発熱含む）との接触歴がある方
- 新型コロナウイルスの患者に濃厚接触の可能性があり、待機期間内（自主待機も含む）の方
- ・上記症状が続く場合、あるいは基礎疾患（持病）の症状に変化がある方は医療機関にご相談ください。
- ・新型コロナウイルスに感染すると悪化しやすい高齢者、糖尿病・心不全・呼吸器疾患の基礎疾患がある方や透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方には、受診延期も考慮していただきます。

○ 受診に際して、受診者をお願いする事項

- ・健診中は各自マスクを着用していただきます。
- ・マスク不足が深刻な折、マスクは受診者ご自身で用意してください。万一、マスクがない場合は健診施設にご相談ください。
- ・入口等にアルコール消毒液を用意しますので、受診者には健診施設への入館（室）時と退館（室）時のほか、健診中も適宜手指消毒をお願いします。アルコールを使えない方には、界面活性剤配合のハンドソープ等により手洗いをお願いします。
- ・健診中は換気を定期的に行うため、外気温が低い季節では室温が下がるため、カーディガン等羽織るものを事前に手元にご用意ください。
- ・受付時間を守り、密集・密接を防ぐことにご協力をお願いします。
- ・健診施設入口等で、非接触型体温計等で体温を実測することがありますのでご協力をお願いします。

地球を 読む

新型コロナウイルスの感染拡大の行方は依然として予断を許さない。

5月に緊急事態宣言が解除されたが、翌月から接待を伴う飲食店の従業員や客などを中心に感染者が増え始めた。その後、一般の会食や家庭内での感染も相次ぎ、感染経路を逃さない感染者の割合が高まっている。感染爆発を引き続き警戒する必要がある。



垣添 忠生
日本対がん協会
会長

コロナ下の医療

がん早期発見の機会奪う

心配なのは、新型コロナウイルスの感染拡大とともに、がん検診が激減していることだ。今年3月頃から各支部でのがん検診は減り始め、4～5月には検診受診者がほぼ10分の1に落ち込んだ。がん検診を一時中止し、がん発見の機会を奪われてしまつた。検診件数が今後、持ち直したとしても影響は免れない。進行の速いがんもある。早期発見の機会を逸してしまつと、本来は治るはずのがんも治すことができなくなる。命に関わる問題だ。

英国では、都市封鎖の間に210万人が、予定していたがん検診を受けられなかった。がんを疑わせる症状があるのに、受診できなかった人は28万人に上つたという。新型コロナウイルスが世界的にがん検診にブレーキをかけ、早期発見・早期治療の機会を奪っているのは看過できない。

この状況は世界最大の感

2面に続く

新型コロナウイルスは、「がん検診」に大きな悪影響をもたらしている。日本人の2人に1人ががんになる時代である。がんは早期発見・早期治療が大切だ。私が会長を務める公益財団法人「日本対がん協会」は1958年の設立以来、主要な柱の一つとして、精度の高いがん検診の提供に力を入れてきた。全国42のグループ支部で、例年だと年間1100万人に実施し、約1万3000人のがんを発見している。

医療機関などでの感染を恐れ、検診を控えている人も多いのではないかと、鼻から内視鏡を入れる検査の担当者が感染するリスクを避けるため、がん検診を休止した医療機関もある。

を奪われてしまつた。検診件数が今後、持ち直したとしても影響は免れない。進行の速いがんもある。早期発見の機会を逸してしまつと、本来は治るはずのがんも治すことができなくなる。命に関わる問題だ。

「**がん検診**」は必要です!!

コロナ下でも



日本対がん協会 会長

垣添 忠生

大腸がんと腎がんを自覚症状のない時期に早期発見し、手術を受けて元気です

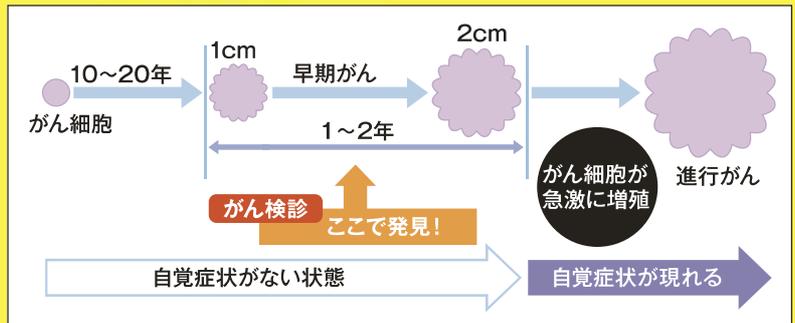
いつ受ける? 声かけしよう **がん検診**

公益財団法人日本対がん協会 2020年度がん征圧スローガン

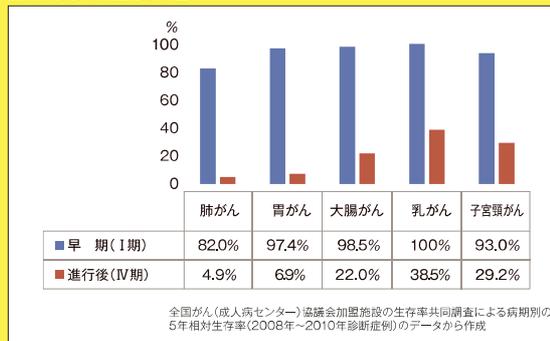
新型コロナウイルスの感染拡大の影響で
検診の受診者は激減しています



一般的に、早期発見ほど治り、発見が遅れるほど治療が困難になります。コロナは防いだけれど、がんが進行していた、では本末転倒です。



病期による5年生存率の差



早期発見のカギは、定期的ながん検診を受けること。貴重な機会を、どうか逃さないください。



イラスト:小澤 遥 (駒込高校・美術部)

公益財団法人 **日本対がん協会**

公益財団法人日本対がん協会
〒104-0061東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階
TEL 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783

検診は怖くありません

コロナ下でも



どんな「がん検診」があるの？

肺がん、胃がん、乳がん、子宮頸がん、大腸がんの5つのがんは、がん検診によって死亡率が低下することが科学的に証明されています。



検診機関は「密」の回避、検温や消毒などの感染防止策をとっています。

				
胃がん検診 胃 X 線検査 胃内視鏡検査	大腸がん検診 便潜血検査	肺がん検診 胸部レントゲン 喫煙者は併せて 喀痰検査	乳がん検診 マンモグラフィー検査	子宮頸がん検診 細胞診
対象年齢:50歳以上 受診間隔:2年に1回	対象年齢:40歳以上 受診間隔:年1回	対象年齢:40歳以上 受診間隔:年1回	対象年齢:40歳以上 受診間隔:2年に1回	対象年齢:20歳以上 受診間隔:2年に1回
※当分の間、胃X線検査については40歳以上年1回実施も可				



肺がんでしたが、まだ小さい子どもの勉強をみたり一緒に遊んだりしたかったので、早く見つかってよかったです。
(40代・男性)



早期の胃がんが見つかりましたが、内視鏡治療ですみました。これからも夫と食べ歩きの趣味が楽しめそうです。
(60代・女性)

どうしたら受けられるの？

- お勤めの方やそのご家族
⇒職場の健康診断や人間ドックでがん検診を実施している場合があります。お勤め先や加入している健康保険組合に確認を。
- それ以外の方、職場や加入健保でがん検診を実施していない場合
⇒自治体を実施するがん検診を受けることができます。市区町村にお問い合わせを。



がん予防・がん検診の推進についての情報はここで確認



検診は心も救います

検診に行かなかった方は、がんになったショックに加え、「検診を受けていたらもっと早期に見つかったかもしれない」という後悔を抱きがちです。

ご家族もまた、「どうしてもっと強く、検診に行けと言わなかったのだろう」と、自分を責めたりします。定期的にごがん検診を受けてください。



日本対がん協会「がん相談ホットライン」からのメッセージ